

(別紙5)

整理番号 2018P-064
補助事業名 平成30年度難病及び希少難病に関する研究機器の整備 補助事業
補助事業者名 公益財団法人日本心臓血圧研究振興会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

拡張型心筋症、劇症型心筋炎、急性心筋梗塞、開心術後低心機能、等の重症心血管疾患における心原性ショックの発症は、最も重要な院内死亡要因の一つです。現在本邦で使用可能な急性期補助循環装置では、このような多臓器不全による高い院内死亡率を改善することができません。2014年に当施設で急性期補助循環装置を使用した、心原性ショック合併重症心血管疾患60名の院内総死亡率は20%と、救命率には大きな限界がありました。その主な理由として低心拍出量症候群ならび多臓器不全症候群を発生して、死亡に至る為である事が判明しており、革新的な急性期補助循環装置の早急な導入による臨床転帰の改善が求められています。

(2) 実施内容

物品名：心原性ショック集中治療管理システム

数量：一式

補助金額：21,513,000円

(URL) http://www.hq.heart.or.jp/?page_id=46



INPELLA制御装置

(別紙5)



超音波画像診断装置Vscan Extend



超音波画像診断装置EPIQ CVx Ultrasound system

(別紙5)



G-TES



seca mBCA525

(別紙5)

2 予想される事業実施効果

今回導入した「心原性ショック集中治療管理システム」の中核を成すImpella®は、ミニチュアプロペラを組み込んだ左室カテーテルを経皮的に挿入する革新的な急性期補助循環装置です。冠灌流を含む全身の血液循環を良好に保持しながら左室に対する負荷を軽減する状態を生み出す効果があり、これは従来の補助循環装置には全くない概念です。

このような革新的なIMPELLA制御装置と、超急性期からG-TES、seca mBCA525を用いた栄養リハビリ導入による集中治療管理システムを併せ持つ、今回導入した「心原性ショック集中治療管理システム」によって、既に、当施設で初期導入した3症例の内2症例は良好な急性期回復を示しています。この様に、私達の目指す「心原性ショック患者の臨床転帰改善」大きな効力をもたらし、本邦における心原性ショック合併重症心血管疾患集中治療のパラダイムシフトを来たすものと期待しています。

3 印刷物等

本事業に係わる印刷物等

- ・ポスター（院内掲示）
- ・ホームページ
- ・平成30年度事業報告書（平成31年10月頃完成予定）
- ・附属榊原記念病院待合室大型モニター1台（放映中）
- ・http://www.hq.heart.or.jp/?page_id=46 (URL)

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 公益財団法人日本心臓血圧研究振興会（コウエキザイダンホウジンニホンシンゾウケツアツケンキュウシンコウカイ）

住 所： 〒162-0054

東京都新宿区河田町8番1号

代 表 者： 理事長 矢崎義雄（ヤザキヨシオ）

担 当 部 署： 事務局（ジムキョク）

担 当 者 名： 課長補佐（カチョウホサ）

電 話 番 号： 03-3357-7643

F A X： 03-3353-8090

E - m a i l： kazumi@hq.heart.or.jp

U R L： <http://www.hq.heart.or.jp/>